

『大学基準』及びその解説』等の改定案に対する意見募集の結果について

(学生からの意見)

公益財団法人 大学基準協会
基準委員会
委員長 圓 月 勝 博

本協会の『大学基準』及びその解説』及びそれに基づく「評価項目」に対して、正会員大学の学生からも貴重なご意見を賜りました。関心を持って基準や評価項目に目を通してくださった学生各位に、心より感謝申し上げます。

この度の意見募集の結果は、以下のとおりです。直接に基準や評価項目に対してなされた意見については、意見をそのまま記載するとともに、それぞれに本協会の対応を示しています。また、直接に基準や評価項目に対するものではないながら、基準、評価項目や大学のあり方等を考える上で重要な意見も多くいただきましたので、それらについては内容別に分類し、その概要と本協会としての対応を示しています。

なお、今回の意見には、充実した学習の感想を伝えるものや親身になって指導・相談にあたってくれる教職員の方々に言及するものなども多くあり、各大学が教育等にご尽力されている事実を当職としてあらためて実感させられました。同時に、経済面をはじめ様々なかたちで学生が問題を抱えている状況も垣間見させられたところでした。そのため、以下にも記すように、大学及び関係者が継続的に努力を重ねていく必要性を強く感じた次第です。

【意見募集の概要】

1	案 件 名	『大学基準』及びその解説』等の改定案に対する意見募集
2	意 見 募 集 期 間	2023年2月15日(水)～同年3月31日(金)
3	意 見 提 出 者 数	20名
4	内容別にみた意見件数	39件
5	意見の受け取り方法	ウェブサイト上の意見提出フォーム又はメール

1. 「『大学基準』及びその解説」等の改定案に対する意見への対応

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
1	<p><基準（大項目）> 基準6 教員・教員組織</p> <p><意見> 「絶えず教員の資質向上に取り組まなければならない」について、どのような資質なのかを明確にしてほしい。</p>	<p>修正なし。</p>	<p>基準の「解説」において、絶えず向上させるべき資質については次のものを挙げています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①. 教育能力（そのことによる教育の充実と学生の学習成果の向上） ②. 研究活動の資質 ③. 社会貢献等の諸活動の資質 <p>教育や研究に関わる能力・資質は、大学が高度の教育機関、学術研究の中心機関である点で重要なのは言うまでもありません。しかしそれだけでなく、社会貢献は大学の役割の1つでもありますし、多様な学生の状況について理解し、その人権を保障できるように努力を続けることも求められることといえるでしょう。大学基準はそのことを意図しています。なお、より詳細は各大学の状況にも応じるものであるため、基準では大綱を定めることと</p>

『大学基準』及びその解説』等の改定案に対する意見募集の結果について

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
			し、原案のままとします。
2	<p><基準（大項目）> 基準7 学生支援</p> <p><意見> 多様なジェンダーへの取り組みについても書かれていると良い。</p>	<p>大学基準において、 「…大学における学生生活を通して豊かな人間性を涵養し、学生が資質及び能力を十分に発揮できるようにする使命も負っている。」 とあるものを、 「…大学における学生生活を通して豊かな人間性を涵養し、多様な価値観・背景を持つ学生が資質及び能力を十分に発揮できるようにする使命も負っている。」 と修正します。</p>	<p>昨今の社会ではジェンダーの問題などが広く取り上げられています。それに限らず、それぞれが様々な価値観・背景を持つ存在であることに気づき尊重しあうことは重要であり、大学としても適切に配慮することが必要だと考えられますので、必要な内容を基準に加ええます。</p>
3	<p><基準（大項目）> 全体</p> <p><意見> 大学基準の内容に直接関係はないかもしれませんが、大学教育や学習環境においては、「開かれた大学」としての機能を存分に発揮できるものであってほしいと考えています。昨今の新型コロナウイルスは、社会に大きな打撃を与えましたが、一方でテレワークやオンライン授業といった新たな生活様式をもたらしました。それによ</p>	修正なし。	<p>ICTの活用等によって「開かれた大学」としての大学の機能をさらに発揮していくべきというご意見は傾聴すべきものと思料します。オンライン教育についていえば、例えば、学生に求める学習の量や質に、対面の時以上に注意を払う必要がありますし、学生の孤立化を防ぐ手立ても重要でしょう。今回のパブリ</p>

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
	<p>り、場所や時間にとらわれずに学習できる機会が増えたと思います。私自身も、自宅で海外大学のオンラインプログラムに参加したり、地方大学の公開講座を受講することができました。それらの催しに参加して、自分の大学での学びをより深めることができましたし、このような機会がもっと増えれば、年齢や経済状況にかかわらず多くの人に学びを与え、大学基準の一つでもある社会貢献にもつながると思いました。</p>		<p>ック・コメントの対象とはしませんが、評価項目を適用するための参考点としての「評価の視点」に、注意を要する点を書き入れたのはそのためです。ICT 特有の注意点に意識を払いながら、教育や研究、社会連携・社会貢献などで、各大学が効果的に活用しその機能を充実させていくことを望みます。</p>
	<p><基準（大項目）> 全体</p> <p><意見> 今回のパブリックコメントを学生に対して実施する理由として「学生の視点が重要である」と述べられており、また、学生に対してパブリックコメントをとるということで、学生の立場に立った視点が盛り込まれていることを期待したのですが、その視点からは正直なところ基準・評価項目ともに期待外れであった感は否めません。</p> <p>特に内部質保証や大学運営における学生参画の視点が全くないだけでなく、学生の要望等を把握し、大学運営に反映させることすら言及されていないことに驚かされました。基準項目は、根本的な部分であるから具体的な内容を個別に書く性質のものではない</p>	<p>大学基準において、 <基準2> 「その際、自己点検・評価の客観性及び妥当性を高めるために外部からの評価を取り入れるなどの工夫を講じることが必要である。」 とあるものを 「その際、自己点検・評価の客観性及び妥当性を高めるために、<u>学生の意見</u>や外部からの評価を取り入れるなどの工夫を講じることが必要である。」 と修正します。</p>	<p>今回提示している基準案では、教員側の働きかけである「教育」ばかりでなく、学生の「学習」についてもより意識的に目を向けられるようにしています。</p> <p>また、基準4の「評価の視点」においては、自己点検・評価において学生の意見を取り入れることについて言及しています。</p> <p>このように、実際に自己点検・評価や大学評価を行う中では、様々な学生の立場に注意を向けられるようにしておりますが、基準においても、そうした考えをより明確にする</p>

No.	意見	意見を踏まえた修正	理由
	<p>としても、拝見する限り評価項目や評価の視点にもその記載がないと思います。</p> <p>評価機関によっては既に学生の要望を適切に把握しているか等を確認しているようですので、それを踏まえるとかなり遅れていると思います。学生の立場からすると、こうした評価があるから大学側が仕方なく対応するというのは本来の姿ではないとも思いますが、それでも大学側には取り組んでいただきたいところです。</p> <p>最近**大学、**大学、**大学などの学生参画の取組みについてHPや新聞等で情報を得る機会がありましたが、学生参画は様々な形で一定数の会員校で既に行われているのではないのでしょうか。また、欧米の大学に留学・訪問する機会もありましたが、そうした大学では大学運営への学生参画は普通に行われています。日本の場合、かつての学生紛争の影響や日本特有の事情があると考えられ、同様の仕組みを全大学に求めることは困難であることも理解できます。しかし、少なくとも「学生生活調査」や「学長と学生との懇談会」等の単発的なものを超えて、継続的に学生を参画させる仕組みを設けているかについては評価項目に加えていただければと思います。</p>	<p><基準4></p> <p>「その際、…学習状況等に目を向けるなど、可能な限り多角的な視点から<u>検証を行っていく</u>ことが重要である。」</p> <p>とあるものを、</p> <p>「その際、…学習状況等に目を向ける<u>ほか、外部の視点や学生の意見を取り入れる</u>など、可能な限り多角的な視点から<u>検証し、自己点検・評価の客観性や有効性を高めていく</u>ことが重要である。」</p> <p>と修正します。</p>	<p>ために、修正します。</p> <p>なお、大学の各種活動において、学生の生活実態や要望等を把握し、改善を図ることは重要ですが、基準10（1）の大学運営では主にいわゆるガバナンスについて述べています。これに学生が責任主体として関与することについては、各大学それぞれの考え方、方法があつてよいと認識しております。そのため、各大学が検討し、導入の是非を含めてそれぞれに応じて対応されることを望みます。</p> <p>このほか、学生の視点に立った評価を行うために、運用面において改善を図ることがないか、本協会は検討を重ねていく所存です。その一環として、附置の大学評価研究所において、「質保証における学生参画のあり方に関する調査研究」を実施しています（～2024年9月）。その結果を踏まえ、本協会は、各大学における取り組みの充実や大学評価の改善等に繋げていく考えです。</p>

2. その他の意見の概要と本協会の対応等

成績評価

成績評価に関しては、不服申し立てをすると否とに関わらず成績評価に至った詳しい経緯（要素ごとの点数等）を学生に開示すべきといった意見や、特に低い評価をする場合の基準を明確すべきといった意見を頂きました。

成績評価について、大学基準においては「あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った客観的かつ厳格で、公正、公平な」実施が必要であることを示しています（基準「教育・学習」）。つまり、学生も方法や基準を知り得ていることが、成績評価においては欠かせないというのが本協会の立場です。これについて、多くの大学は、シラバス等で成績評価の方法や基準を明らかにしており、成績評価に至った詳しい経緯については、学生が説明を求めれば快く応じるという大学が多く存在するというのも事実だと思われまます。「学習成果の可視化」あるいは「学習者本位の教育」が求められ、学生自身が自らの達成度を確認できる重要性も指摘されているなか、成績評価に関して学生も基準等を理解し、教員と学生が評価についてコミュニケーションをとっていくことはますます必要だと認識します。各大学が適切に対応していくことを望みます。

経済的支援

各家庭の経済状態を踏まえた経済的支援も重要である一方で一般家庭の学生にも配慮した措置が必要とする意見や、学費納付者の死亡等による経済状態の急変への柔軟な対応を求める意見や、成績優秀者の学費軽減といった学生の努力を評価して行われる経済的な支援の拡充等の意見を頂きました。

大学基準は、「授業料の減免、大学独自の奨学金、学外の奨学金」といった例を挙げながら、経済的な面からも学生を支援し「安定した学生生活の実現に努め」る必要があるとしています（基準7「学生支援」）。「学外の奨学金」という例があるように、当該大学だけで学生の全てのニーズに応えねばならないとはしていません。学外の奨学金、支援制度の情報提供など、幅広いかたちで学生の学びを支えてほしいというのが、大学に対する大学基準のメッセージです。

社会的格差の問題が取り上げられて久しく、また教育経費は誰が負担すべきなのかについて国を挙げて議論が行われています。このようななか、学生の経済的負担軽減の責任は大学だけに帰せるものではないと思料されます。一方で、経済的な理由で退学等を考えねばならない学生がいるのも事実です。そうした学生が一人でも少なくなるよう、大学やその関係者、そして国等の公的機関が、可能な限りの対応を取っていくことも必要だと認識します。

I C T

オンライン授業の経験もあり、I C Tに関しては少なからぬ意見を頂きました。進展するデジタル技術を大学が活用することの意義を認めつつも、それに伴う負担を学生に求めることを疑問視し、環境面、経済面で学費以外の負担が生じることなく学べるよう望む意見のほか、施設等の環境面でも、授業がオンラインで行われる場合、静かな環境を望む意見等がありました。

オンライン教育その他 I C Tに関し、大学基準においては、「学生の視点に立ったネットワーク環境や情報通信技術（I C T）機器の充実とその活用の促進を図る必要がある」とあり「情報倫理」にも言及しています（基準8「教育研究等環境」）。基準では、機器類の充実だけでなく「その活用の促進を図る必要」性を述べているということ、そして「情報倫理」を述べていることから、当然にハード面での対応だけでなく、学生等が問題なく I C T機器等を利用し、教育・研究や学習を充実させていけるような相談、技術支援、適正な使用のための取り組みといったソフト面も重要であるという読み取りができると思います。その意味で、I C Tを導入することによって生じる学生の負担、あるいは、いわゆる「デジタルデバイド」などを最小にする取り組みが大学に求められるところです。

なお、大学基準が意図するハード面、ソフト面での対応について、「評価の視点」（大学の自己点検・評価や、本協会による大学の評価にあたって、大学基準を解釈・適用するための具体的な切り口となるもの）では後者のものが必ずしも十分でないと思われ、今回のパブリック・コメントを踏まえて修正いたします。

その他

施設・設備に関わるもの等、所属する大学固有の事項に関わる意見も頂きました。固有の事項に関わる意見ですので、ここでの記載は略します。

以上